

地域に定着する放射線治療医養成 WG

領域1 高精度放射線治療を担う人材の育成「演習1」を開催しました

地域に定着する放射線治療医養成 WG が開講する、緩和的放射線治療・密封小線源治療・高精度放射線治療の質の向上と普及を担う人材養成コース
領域1「高精度放射線治療を担う人材の育成」において、「演習1」を開催しました。



演習1

7月26日（土）13:00～16:20（順天堂大学D棟 8階カンファレンスルーム）
テーマ「高精度放射線治療における患者固定方法と精度」

講師：黒河 千恵先生、范 睿恒先生、生本 隆洋先生（順天堂大学）、
野武 亮一先生（東京科学大学）、臺 洋平先生（虎の門病院）、
丸山 大樹先生（日本赤十字社医療センター）、小金澤 亮先生（国際医療福祉大学）

要旨：高精度放射線治療を実施する上では患者の位置再現性を担保することが重要です。しかし、どのような固定具を使用するべきなのか、他の施設ではどのように固定具を作成しているのかを学ぶ機会は限られています。本演習では講義と演習、さらに企業からの最新固定具のプレゼンテーションを通して、固定具作成について受講生と講師が議論しました。

前半は普及がすすむ SGRT（体表面画像誘導放射線治療）と転移性脳腫瘍に対する定位照射の固定具、呼吸性移動対策に使用する固定具、技師が考える理想的な固定具について講義を行いました。



後半は順天堂医院での脳定位照射と体幹部定位放射線治療での固定具作成を実演しながら、固定具作成のノウハウを学びました。各施設での固定具作成の方法や注意点について議論をしました。

本演習に協賛いただいた株式会社千代田テクノル、東洋メディック株式会社からは最新の固定具を紹介していただき、参加者の施設で使用している固定具との違いを議論しました。参加者は 12 名でした。



地域に定着する放射線治療医養成 WG

領域1 高精度放射線治療を担う人材の育成「特別講義1」を開催しました



特別講義 1

9月18日（木）18：30～19：50（Zoom開催）

テーマ「重粒子線治療の臨床と研究の最新トピック」

講師：稻庭 拓先生（国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 グループリーダー）

濱谷 紀彰先生（大阪国際がん治療財団 医学物理士）

座長：高津 淳先生（順天堂大学）

要旨：重粒子線治療は、X線や陽子線に比べて生物学的効果が高く、がんに集中的に照射できる最先端の放射線治療です。副作用を抑えながら、短期間で高い治療効果が期待でき、特に手術が難しいがんに対して有効な治療法として注目されています。本講義では、重粒子線治療の物理学的・生物学的な基礎知識を講演いただいた後、重粒子線治療の普及に向けた装置の小型化、より治療成績を向上させるためのマルチイオンを用いた治療について紹介いただきました。参加者は61名でした。

